

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2090900073	
法人名	社会福祉法人高遠さくら福祉会	
事業所名	グループホーム桜	
所在地	長野県伊那市高遠町勝間222番	
自己評価作成日	平成22年12月8日	評価結果市町村受理日 平成23年4月14日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2090900073&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部
所在地	長野県松本市両島7-1 オフィス松本堂2A
訪問調査日	平成23年1月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

桜が有名な高遠城址公園を見渡せ、西側に仙丈ヶ岳、南に田畑が広がる原風景に、平屋建ての2ユニットで最新の太陽光設備を備えたグループホーム桜が平成22年4月に開所しました。ハード・ソフト共に隣接する特養の認知症ケアのノウハウを注ぎ込みました。そこから得た、集団ケア・個別ケアを上手に活かし、ご利用者様個々にあった介護計画を立案し、実行に移しております。その一環とし、開所当初から畑には力を入れ十分な食材が確保でき、それらを用いた毎日の食事、焼き芋会、収穫祭、ゴーヤ茶など健康面や行事に活用できております。また、地域との連携が取れており「行方不明者捜索協定」も新たに締結し理念にある「地域に開かれた施設」を実践しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム桜は豊かな自然環境と開放的な広いホールを家庭的な雰囲気に配慮して、ゆったり、ゆっくりと寛ぐことのできる仕様と成っている。母体法人に隣接して設置し、日常的に連携を図りサービスの向上に努められている。管理者は専門性と豊かな実践経験を活かし地域密着型サービスの質の確保と向上を図るために職員の指導に当たられている。職員と共に入居者に寄り添いながら感情豊かに過せる暮らしのケアに努められている。なお職員の中には終末期ケアの経験者もあり理解と意欲を持って当たられている。またホームの災害対策についての消防計画を作成すると共に地区との災害協定書や行方不明の捜索協定書の締結により、地域との協力体制を確立し、入居者やご家族、職員の大きな安心と安全に繋がりが安らぎのある暮らしの実現が得られている。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名(ユニット1)		項目		項目	
項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない			

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
ユニット名(ユニット2)			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を共有し、毎月法人の全体会議では理念を復唱している。また、事務室・スタッフルーム・会議室の見やすい場所に理念を掲示しており、理念に基づいた実践を行っている。	母体法人理念「ご利用者様の意向と尊厳を大切に、毎日が楽しい日々であるように努めます。等等」を共有し、法人定例会議において周知すると共に、管理者は職員会議時に職員に伝え理念の浸透を図り実践に活かされている。	法人理念を活用しつつ、地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、地域生活の継続と事業所と地域との関係性を重視した「グループホーム桜」独自の理念をつくりあげ、ケアサービスの実践に活かされるよう期待する。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りには、地元のコーラス隊が来て盛り上げてくれたり、逆に事業所からも地域の祭りに出かけている。また、小さなことでは事業所の畑を近所の方が耕運機で耕していただき、お礼に収穫祭にお呼びしたりと、身近な交流を心がけている。	日常的な散歩や買い物時に挨拶を交わしたり、ホーム菜園に耕作のお手伝いや収穫祭に見える近所の方々との交流が図られている。またホームの夏祭りに参加頂いたり、地域の夏祭りに積極的に入居者と共に出掛け楽しまれている。時には野菜や果物のおすそ分けを頂くなど地域との関係性が築かれつつある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開所時にキャラバンメイトの講習を受けた職員が実践を通して学んできた経験を踏まえ公開講座を行った。また、事業所職員が地域の研修にパネリストとして参加したり、情報発信をしている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、毎回ご利用者様・職員体制・活動内容を事細かに報告し、会議でいただいた意見を職員会議に図り、行方不明者マニュアル作成等、具体的に進めている。	運営推進会議にはご家族、地域住民(区長・民生委員等)、行政担当者、包括支援センター等幅広い立場の方々に参加して頂き定期的に開催されている。ホームの現況報告や課題として取り上げられた検討事項や懸案事項について参加者より質問、意見、要望を受け双方向的な会議となっている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	空きベッドができたときは、市から相談を受けているお年寄りを体験入所してみたりと、常に高齢者福祉課・包括支援センターとはこまめな連携をとり、情報交換をしている。	行政担当者には常にホームの実情を伝え相談に乗って頂く等、連携を取り合い協同関係の継続に努められている。	今後行政担当者や包括支援センターと連携を図りながら、ホームのキャラバンメイト等を活用して認知症予防教室の開催などホーム機能の地域への還元を期待する。

外部評価結果(グループホーム桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていません。身体拘束については、職員会議やカンファレンス等で確認している。	身体拘束をしないケアの実践に向けた研修に職員が参加し、職員会議の折に報告して職員全員で周知されている。現在離設傾向にある入居者がいるため共用空間入り口の施錠がされている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内での高齢者虐待研修を実施し、意識を深めている。現在、事業所内での虐待のある事実はない状態である。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご家族様に後見人制度の説明をし、関係機関の紹介、手続きに協力している。現在、1名のご利用者が後見人制度を活用している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書・重要事項説明書・運営事項・個人情報取り扱いを丁寧に説明し、その都度質問を受け付け、専門用語は分かりやすい言葉にかえて説明している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の中で、意見等を聞き取っており運営に反映させている。また、カンファレンスにはご家族様も参加していただき、要望を取り入れている。また、重要事項に事業所・市町村・国保連の苦情相談窓口を明記している。	3ヶ月毎に見直される介護計画書作成時には入居者やご家族が参加されており、思いや要望など意見を聞く機会が設けられている。なお家族会や運営推進会議の折にも意見の表出場面が設けられ、出された意見や要望はケアサービスの提供に反映されている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人全体の経営会議に管理者は出席し、職員会議で出た意見を反映している。また、事業所内の会議では、全職員の意見を聞けるよう事前にアンケートを実施し、リズムにまとめ会議に出している。	定例会議前に職員よりアンケートを取り、出された案件について積極的に話し合われている。管理者は法人全体の経営会議に出席して職員の意見や要望を報告し反映させて質の向上に繋げる取り組みが行われている。	

外部評価結果(グループホーム桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者と管理者は定期的な経営検討の話し合いを行い、実績、勤務状況、給与水準、やりがいなど、能力考課表を作り全ての職員が何を目標に頑張るかを具体的に明記すると共に、キャリアパスを導入し向上心を持って働ける環境を整備している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修会を中心に、全職員が参加できるように勤務表の配慮をしている。施設外の研修にも参加し、職員会議で報告を兼ねた学習会を実施している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	上伊那圏域のグループホーム管理者会議に毎回出席し、情報交換を実施している。また、相互見学を兼ねた職員間の交流研修を行っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず、ご本人に施設に来ていただき、困っていること、不安なこと等を聴いている。また、事前にご本人の同意を得てケアマネや通所事業所から情報をいただき、ご本人からの要望を引き出せるよう、配慮している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾け、その上で施設として何が出来るかを具体的に施設内を案内しながら説明し、不安の軽減に努めている。また、施設来所時の情報は職員間で共有している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族、施設側相互で不安を感じたときお話し入所していただき、ケアマネ等も含めカンファレンスを持ち、何が一番ご本人に適しているか検討の機会を設けている。		

外部評価結果(グループホーム桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の意向と尊厳を第一に考え、一緒に楽しむ事を念頭に、尊敬の念を持ちながら接している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期カンファレンスのときは、ご本人、ご家族にも入っていただき、情報を共有し共に目標を設定している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者の隣人、元同僚など交友関係を確認し、ご家族以外の面会を受け入れている。	面会簿を活用して入居者の人間関係(隣人や元職場の同僚、友人等)を把握し面会の受け入れに努められている。なお生活史や自宅近くをドライブされた折に行きつけの食堂や美容院へ立ち寄るなど、社会関係との継続支援に努められている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気心したご利用者同士が楽しく過ごせるよう、席順の配置を工夫している。また、集団レク・個別レクのメリハリをつけ、集団レクでは連帯感を深める太鼓を使用した、リズム体操や歌などを積極的に取り入れている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、ご家族様との間で手紙のやり取りをし、気軽に立ち寄れる関係を保持している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員を付け、定期的にケアチェック、嗜好調査等の他、カンファレンスにはご本人、ご家族に参加していただき、要望を聴いてケアプランに取り入れている。	担当職員が日々の寄り添いのケアより、入居者の思いや意向の把握に努められている。なお思いや意向の表出が困難な入居者についてはご家族がホームへ訪問の折に情報を得るようにされている。	

外部評価結果(グループホーム桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、ご家族様から生活暦シートに記入していただき、不足の部分は日々の関わりの中から情報収集し、馴染みの暮らし等を聞き出している。そして、これまでの生活暦を大切にケアプランに反映している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月実施している全ご利用者のケース検討会にて詳細な情報を収集し、全職員が情報を共有している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期カンファレンスには、ご本人・ご家族にも参加していただき、ケアチェックから導き出される課題だけではなく、生活暦を取り入れた要望等をお聴きし、ケアプランに反映している。	入居者が地域でより良く暮らし続けるための個別の介護計画の作成にあたり、入居者、ご家族に参加頂き思いや意向を伺うと共に、日頃のケアより得られた情報(気づき、意見)等を反映した介護計画が作成されている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護支援経過記録に、情報を集約しその場にいた職員が詳細に書き込み、全職員間で情報を共有している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族様の要望に応じて、受診や外出支援をきめ細かく実施している。また、ご利用者の状態や気分に合わせて、買い物・散歩・ドライブなど行き先にとらわれない柔軟な対応をしている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学校の音楽会・地元の祭りなど、地域と協力し安全に参加できるよう会場設定等協力していただき、外出している。また、地元の勝間区とは行方不明者捜索協定を締結している。		

外部評価結果(グループホーム桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居しているご利用者全員が在宅からのかかりつけ医を継続している。受診時には日常の様子を記載した情報提供書を持参したり、必要に応じて職員が付添い医療との連携を図っている。	入居者やご家族が希望されている馴染みのかかりつけ医による受診支援が行われている。基本的にはご家族同行による受診となっているが、ご家族に不都合が見られる時はホーム機能を活用した支援が行われている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接の特養看護師と連携を図り適切なアドバイスをその都度受けられる体制を取っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には日常の様子を病院へ情報提供している。入院中も職員がこまめに病院へ足を運びスムーズな受け入れができるよう担当看護師から状態を聴き、施設の要望も伝えている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナル期には、ご家族の意向を踏まえた上で、かかりつけ医、隣接の特養看護師が事業所内で、「できること・できないこと」を相談しご本人にとり、最良の方法を検討しご家族・事業所ともに納得の行く方法で取り組んでいる。	開設して1年にみえないホームであり運営方針として重度化や終末期ケアへの対応が確立されていない。その中でホームとして対応し得る最大の支援方法について職員全員で話し合い取り組まれている。	ホームスタッフの中には母体施設での終末期ケアの経験者も居り理解と意欲を持たれている。入居者やご家族の安心と安全を確保してよりよく暮らしていただくために、医療関係者との連携体制作りや職員体制の充実に向けた取り組みに期待する。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、必ず1回は救命救急講習への参加を義務付けている。また、法人内での研修で毎年復習をしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度は、消防署、業者の協力を得て通報訓練、避難誘導訓練、事業所内の防災設備の指導していただき、全職員で情報を共有している。	グループホーム桜の消防計画を作成すると共に、消防署の協力を得て防災訓練や避難訓練が行われている。なお地区との災害協定を提携して地域との協力体制を築かれている。	ホームの夜勤者が一人で18名の支援に当たられており、手薄となる夜間の実践的な避難訓練の実施により入居者、職員の安全と不安解消が得られる取り組みに期待する。

外部評価結果(グループホーム桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「ご利用者の意向と尊厳を大切に」と云う理念を共有し、日々の関わりの中で実践している。また、契約時には個人情報取り扱いに関する説明をご家族・ご本人にした上で同意書を頂いている。	若い職員には積極的に外部研修に参加して頂き、職員会議の折に報告をして共有が図られている。なお管理者による指導により、優しさのこもった言葉掛けやドアの開け閉め、トイレの付き添い時の対応等に配慮されている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者のエンパワメントを引き出せるような声かけ、誘導を実践している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者個々の生活パターンを把握し、ご本人にとり居心地のよい生活を築き上げていくとともに、その日の状態や要望に柔軟に対応できるような声かけ、誘導を実施している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれ講座をとりいれ、綺麗にお化粧品をし、洒落た服を着てご利用者の輝きを引き出すレク企画を実践している。また、行きつけの美容院に行くことができるよう支援し、行けない方には月2回訪問理美容に来てもらっている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の食べたい食事を聞いてメニューに反映させている。また自畑で採れた作物も積極的に取り入れている。食事の準備から後片付けまでご利用者と職員が一緒に行っている。	ホームには広い菜園があり、近所の方の支援を頂き収穫し、希望するメニューに食材として取り入れ職員と共に調理から配善、片付け等を行っている。入居者と職員全員が同じ物を食べる習慣がない。	入居者と職員が同じ食卓を囲み同じ物を楽しんで食することのできる雰囲気づくりなど、食生活の豊かさに期待する。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの嗜好を把握した上で、提供している。法人の管理栄養士に定期的に献立の指導を受け、適切な栄養価の食事を作っている。食事、おやつ摂取量についても記録に残している。		

外部評価結果(グループホーム桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけしご本人が出来る事は行って頂いている。必要な方にはマウス・スポンジを使用し清潔の保持に努めている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて排泄のパターンを把握し、その方に合わせたトイレへの声かけ、誘導を行っている。また、定期的にアセスメント・評価を行っており、その内容に基づいて支援している。	入居者の排泄パターンを職員間で周知して、自立に向けた支援が行われている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方には、水分も促すようにしている。また、毎日ラジオ体操を行い、天気の良い日は散歩に出かけるなどして、便秘予防に努めている。ヨーグルト・バナナ・ヤクルト等食材の工夫もしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴提供をしている。時間帯は努力はしているが、希望の時間に必ずしも提供は出来ない。一人ひとりの要望を把握しながらタイミングに合わせて入浴していただいている。	週2回の頻度で入浴支援が行われ入居者の要望や身体状況に応じた入浴支援に努められている。なおご家族からの希望があり入居者と一緒に入浴を楽しむことのできるよう配慮されている。時にはゆず湯や入浴剤等による季節風呂を提供して、入浴を楽しむことのできる支援に努められている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠・休息状態をアセスメント・評価しており、その内容に基づいて、支援方法を明確にしている。また、疲労の様子が見られた時は、個別に声かけをし、ソファーや居室でゆっくり休めるようにサポートしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋をかかりつけ医に出してもらっている。その処方箋をカルテに保管して、職員間で情報共有し、適切な内容で服用ができるようにサポートしている。		

外部評価結果(グループホーム桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌、手芸等好きなことに参加して頂けるようにしている。食器拭き、洗濯ものたたみ、掃除等はご利用者が中心となって実施することで、生活の張りに繋がっている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望により、買い物やドライブ、散歩を行っている。レク担当者による計画を立案し、外出・外食・季節毎の行事を行っている。	ホームに隣接する遊歩道を日常的に散歩して近隣の山々や田園風景を眺めながら季節を肌で感じると共に、気分転換やストレスの発散に配慮した支援が行われている。なお入居者の身体状況に合わせ車椅子を活用されるなど移動に配慮されている。また買い物やドライブ、外食、花見等季節行事による外出支援も行われている。	入居者の身体状況の低下に伴い、外出時に見守り、手引き、車椅子使用者の介助等により支援提供が困難(職員数が限られている)になると思われる。今後、地域に散歩ボランティアを呼び掛け入居者の楽しみや喜びの支援に繋がるよう期待する。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人管理のお金の持ち込みは、認知症による管理能力の低下も踏まえ、最小限にして頂いている。ご本人やご家族からの希望が無い場合は、金銭管理の支援は行っていない。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設の電話は、ご利用者から希望があればいつでも繋ぐようにしている。また、手紙についても、差出し・受け取りを自由にして頂いている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく、広々とした共用の場はご利用者全員で大きな円になり体操ができ、窓の外は田畑・山が広がり開放的である。広いが在宅のような空間を作る工夫として、季節感のある作品や草花を飾るようにしている。	ホームは2ユニットありユニット間の間仕切りを開放して広々とした共用空間の中で思い思いに過ごされている。中央の空間には畳みスペースが設置されており横になって寛がれている。広いウッドデッキや窓外から田園風景が望め開放感が得られる使用となっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子をおいて思い思いの場所で過ごして頂いている。ウッドデッキや外の芝庭に自由に入出りができる。		

外部評価結果(グループホーム桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居契約時やカンファレンスの際に、ご家庭で使い慣れた家具や生活用品を準備して頂くをお願いしており、各ご利用者の生活習慣や好みに合わせた環境に整えている。	入居時の重要事項説明書にホームへ持ち込めるもの、持ち込めないもの等が記載されている中で入居者は馴染みの物(椅子、小物入れ、テレビ等)や家族写真、季節の鉢花などを持ち込み思い思いの住み心地の良い居室使用となっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、浴室、トイレ等に手すりの設置をしている。また、日々様子を観察し、改善が必要と思われる所の改善、工夫を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を共有し、毎月法人の全体会議では理念を復唱している。また、事務室・スタッフルーム・会議室の見やすい場所に理念を掲示しており、理念に基づいた実践を行っている。	母体法人理念「ご利用者様の意向と尊厳を大切に、毎日が楽しい日々であるように努めます。等等」を共有し、法人定例会議において周知すると共に、管理者は職員会議時に職員に伝え理念の浸透を図り実践に活かされている。	法人理念を活用しつつ、地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、地域生活の継続と事業所と地域との関係性を重視した「グループホーム桜」独自の理念をつくりあげ、ケアサービスの実践に活かされるよう期待する。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りには、地元のコーラス隊が来て盛り上げてくれたり、逆に事業所からも地域の祭りに出かけている。また、小さなことでは事業所の畑を近所の方が耕運機で耕していただき、お礼に収穫祭にお呼びしたりと、身近な交流を心がけている。	日常的な散歩や買い物時に挨拶を交わしたり、ホーム菜園に耕作のお手伝いや収穫祭に見える近所の方々との交流が図られている。またホームの夏祭りに参加頂いたり、地域の夏祭りに積極的に入居者と共に出掛け楽しまれている。時には野菜や果物のおすそ分けを頂くなど地域との関係性が築かれつつある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開所時にキャラバンメイトの講習を受けた職員が実践を通して学んできた経験を踏まえ公開講座を行った。また、事業所職員が地域の研修にパネリストとして参加したり、情報発信をしている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、毎回ご利用者様・職員体制・活動内容を事細かに報告し、会議でいただいた意見を職員会議に図り、行方不明者マニュアル作成等、具体的に進めている。	運営推進会議にはご家族、地域住民(区長・民生委員等)、行政担当者、包括支援センター等幅広い立場の方々に参加して頂き定期的に開催されている。ホームの現況報告や課題として取り上げられた検討事項や懸案事項について参加者より質問、意見、要望を受け双方向的な会議となっている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	空きベッドができたときは、市から相談を受けているお年寄りを体験入所してみたりと、常に高齢者福祉課・包括支援センターとはこまめな連携をとり、情報交換をしている。	行政担当者には常にホームの実情を伝え相談に乗って頂く等、連携を取り合い協同関係の継続に努められている。	今後行政担当者や包括支援センターと連携を図りながら、ホームのキャラバンメイト等を活用して認知症予防教室の開催などホーム機能の地域への還元を期待する。

外部評価結果(グループホーム桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていません。身体拘束については、職員会議やカンファレンス等で確認している。	身体拘束をしないケアの実践に向けた研修に職員が参加し、職員会議の折に報告して職員全員で周知されている。現在離設傾向にある入居者がいるため共用空間入り口の施錠がされている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内での高齢者虐待研修を実施し、意識を深めている。現在、事業所内での虐待のある事実はない状態である。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご家族様に後見人制度の説明をし、関係機関の紹介、手続きに協力している。現在、1名のご利用者が後見人制度を活用している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書・重要事項説明書・運営事項・個人情報取り扱いを丁寧に説明し、その都度質問を受け付け、専門用語は分かりやすい言葉にかえて説明している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の中で、意見等を聞き取っており運営に反映させている。また、カンファレンスにはご家族様も参加していただき、要望を取り入れている。また、重要事項に事業所・市町村・国保連の苦情相談窓口を明記している。	3ヶ月毎に見直される介護計画書作成時には入居者やご家族が参加されており、思いや要望など意見を聞く機会が設けられている。なお家族会や運営推進会議の折にも意見の表出場面が設けられ、出された意見や要望はケアサービスの提供に反映されている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人全体の経営会議に管理者は出席し、職員会議で出た意見を反映している。また、事業所内の会議では、全職員の意見を聞けるよう事前にアンケートを実施し、リズムにまとめ会議に出している。	定例会議前に職員よりアンケートを取り、出された案件について積極的に話し合われている。管理者は法人全体の経営会議に出席して職員の意見や要望を報告し反映させて質の向上に繋げる取り組みが行われている。	

外部評価結果(グループホーム桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者と管理者は定期的な経営検討の話し合いを行い、実績、勤務状況、給与水準、やりがいなど、能力考課表を作り全ての職員が何を目標に頑張るかを具体的に明記すると共に、キャリアパスを導入し向上心を持って働ける環境を整備している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修会を中心に、全職員が参加できるように勤務表の配慮をしている。施設外の研修にも参加し、職員会議で報告を兼ねた学習会を実施している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	上伊那圏域のグループホーム管理者会議に毎回出席し、情報交換を実施している。また、相互見学を兼ねた職員間の交流研修を行っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず、ご本人に施設に来ていただき、困っていること、不安なこと等を聴いている。また、事前にご本人の同意を得てケアマネや通所事業所から情報をいただき、ご本人からの要望を引き出せるよう、配慮している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾け、その上で施設として何が出来るかを具体的に施設内を案内しながら説明し、不安の軽減に努めている。また、施設来所時の情報は職員間で共有している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族、施設側相互で不安を感じたときお話し入所していただき、ケアマネ等も含めカンファレンスを持ち、何が一番ご本人に適しているか検討の機会を設けている。		

外部評価結果(グループホーム桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の意向と尊厳を第一に考え、一緒に楽しむ事を念頭に、尊敬の念を持ちながら接している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期カンファレンスのときは、ご本人、ご家族にも入っていただき、情報を共有し共に目標を設定している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者の隣人、元同僚など交友関係を確認し、ご家族以外の面会を受け入れている。	面会簿を活用して入居者の人間関係(隣人や元職場の同僚、友人等)を把握し面会の受け入れに努められている。なお生活史や自宅近くをドライブされた折に行きつけの食堂や美容院へ立ち寄るなど、社会関係との継続支援に努められている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気心しれたご利用者同士が楽しく過ごせるよう、席順の配置を工夫している。また、集団レク・個別レクのメリハリをつけ、集団レクでは連帯感を深める太鼓を使用した、リズム体操や歌などを積極的に取り入れている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、ご家族様との間で手紙のやり取りをし、気軽に立ち寄れる関係を保持している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員を付け、定期的にケアチェック、嗜好調査等の他、カンファレンスにはご本人、ご家族に参加していただき、要望を聴いてケアプランに取り入れている。	担当職員が日々の寄り添いのケアより、入居者の思いや意向の把握に努められている。なお思いや意向の表出が困難な入居者についてはご家族がホームへ訪問の折に情報を得るようにされている。	

外部評価結果(グループホーム桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、ご家族様から生活暦シートに記入していただき、不足の部分は日々の関わりの中から情報収集し、馴染みの暮らし等を聞き出している。そして、これまでの生活暦を大切にケアプランに反映している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月実施している全ご利用者のケース検討会にて詳細な情報を収集し、全職員が情報を共有している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期カンファレンスには、ご本人・ご家族にも参加していただき、ケアチェックから導き出される課題だけではなく、生活暦を取り入れた要望等をお聴きし、ケアプランに反映している。	入居者が地域でより良く暮らし続けるための個別の介護計画の作成にあたり、入居者、ご家族に参加頂き思いや意向を伺うと共に、日頃のケアより得られた情報(気づき、意見)等を反映した介護計画が作成されている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護支援経過記録に、情報を集約しその場にいた職員が詳細に書き込み、全職員間で情報を共有している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族様の要望に応じて、受診や外出支援をきめ細かく実施している。また、ご利用者の状態や気分に合わせて、買い物・散歩・ドライブなど行き先にとらわれない柔軟な対応をしている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学校の音楽会・地元の祭りなど、地域と協力し安全に参加できるよう会場設定等協力していただき、外出している。また、地元の勝間区とは行方不明者捜索協定を締結している。		

外部評価結果(グループホーム桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居しているご利用者全員が在宅からのかかりつけ医を継続している。受診時には日常の様子を記載した情報提供書を持参したり、必要に応じて職員が付添い医療との連携を図っている。	入居者やご家族が希望されている馴染みのかかりつけ医による受診支援が行われている。基本的にはご家族同行による受診となっているが、ご家族に不都合が見られる時はホーム機能を活用した支援が行われている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接の特養看護師と連携を図り適切なアドバイスをその都度受けられる体制を取っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には日常の様子を病院へ情報提供している。入院中も職員がこまめに病院へ足を運びスムーズな受け入れができるよう担当看護師から状態を聴き、施設の要望も伝えている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナル期には、ご家族の意向を踏まえた上で、かかりつけ医、隣接の特養看護師が事業所内で、「できること・できないこと」を相談しご本人にとり、最良の方法を検討しご家族・事業所ともに納得の行く方法で取り組んでいる。	開設して1年にみえないホームであり運営方針として重度化や終末期ケアへの対応が確立されていない。その中でホームとして対応し得る最大の支援方法について職員全員で話し合い取り組まれている。	ホームスタッフの中には母体施設での終末期ケアの経験者も居り理解と意欲を持たれている。入居者やご家族の安心と安全を確保してよりよく暮らしていただくために、医療関係者との連携体制作りや職員体制の充実に向けた取り組みに期待する。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、必ず1回は救命救急講習への参加を義務付けている。また、法人内での研修で毎年復習をしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度は、消防署、業者の協力を得て通報訓練、避難誘導訓練、事業所内の防災設備の指導していただき、全職員で情報を共有している。	グループホーム桜の消防計画を作成すると共に、消防署の協力を得て防災訓練や避難訓練が行われている。なお地区との災害協定を提携して地域との協力体制を築かれている。	ホームの夜勤者が一人で18名の支援に当たられており、手薄となる夜間の実践的な避難訓練の実施により入居者、職員の安全と不安解消が得られる取り組みに期待する。

外部評価結果(グループホーム桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「ご利用者の意向と尊厳を大切に」と云う理念を共有し、日々の関わりの中で実践している。また、契約時には個人情報取り扱いに関する説明をご家族・ご本人にした上で同意書を頂いている。	若い職員には積極的に外部研修に参加して頂き、職員会議の折に報告をして共有が図られている。なお管理者による指導により、優しさのこもった言葉掛けやドアの開け閉め、トイレの付き添い時の対応等に配慮されている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者のエンパワメントを引き出せるような声かけ、誘導を実践している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者個々の生活パターンを把握し、ご本人にとり居心地のよい生活を築き上げていくとともに、その日の状態や要望に柔軟に対応できるような声かけ、誘導を実施している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれ講座をとりいれ、綺麗にお化粧品をし、洒落た服を着てご利用者の輝きを引き出すレク企画を実践している。また、行きつけの美容院に行くことができるよう支援し、行けない方には月2回訪問理美容に来てもらっている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の食べたい食事を聞いてメニューに反映させている。また自炊で採れた作物も積極的に取り入れている。食事の準備から後片付けまでご利用者と職員が一緒に行っている。	ホームには広い菜園があり、近所の方の支援を頂き収穫し、希望するメニューに食材として取り入れ職員と共に調理から配善、片付け等を行っている。入居者と職員全員が同じ物を食べる習慣がない。	入居者と職員が同じ食卓を囲み同じ物を楽しんで食することのできる雰囲気づくりなど、食生活の豊かさに期待する。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの嗜好を把握した上で、提供している。法人の管理栄養士に定期的に献立の指導を受け、適切な栄養価の食事を作っている。食事、おやつ摂取量についても記録に残している。		

外部評価結果(グループホーム桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけしご本人が出来る事は行って頂いている。必要な方にはマウス・スポンジを使用し清潔の保持に努めている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて排泄のパターンを把握し、その方に合わせたトイレへの声かけ、誘導を行っている。また、定期的にアセスメント・評価を行っており、その内容に基づいて支援している。	入居者の排泄パターンを職員間で周知して、自立に向けた支援が行われている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方には、水分も促すようにしている。また、毎日ラジオ体操を行い、天気の良い日は散歩に出かけるなどして、便秘予防に努めている。ヨーグルト・バナナ・ヤクルト等食材の工夫もしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴提供をしている。時間帯は努力はしているが、希望の時間に必ずしも提供は出来ていない。一人ひとりの要望を把握しながらタイミングに合わせて入浴していただいている。	週2回の頻度で入浴支援が行われ入居者の要望や身体状況に応じた入浴支援に努められている。なおご家族からの希望があり入居者と一緒に入浴を楽しむことのできるよう配慮されている。時にはゆず湯や入浴剤等による季節風呂を提供して、入浴を楽しむことのできる支援に努められている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠・休息状態をアセスメント・評価しており、その内容に基づいて、支援方法を明確にしている。また、疲労の様子が見られた時は、個別に声かけをし、ソファや居室でゆっくり休めるようにサポートしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋をかかりつけ医に出してもらっている。その処方箋をカルテに保管して、職員間で情報共有し、適切な内容で服用ができるようにサポートしている。		

外部評価結果(グループホーム桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌、手芸等好きなことに参加して頂けるようにしている。食器拭き、洗濯ものたたみ、掃除等はご利用者が中心となって実施することで、生活の張りに繋がっている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望により、買い物やドライブ、散歩を行っている。レク担当者による計画を立案し、外出・外食・季節毎の行事を行っている。	ホームに隣接する遊歩道を日常的に散歩して近隣の山々や田園風景を眺めながら季節を肌で感じると共に、気分転換やストレスの発散に配慮した支援が行われている。なお入居者の身体状況に合わせ車椅子を活用されるなど移動に配慮されている。また買い物やドライブ、外食、花見等季節行事による外出支援も行われている。	入居者の身体状況の低下に伴い、外出時に見守り、手引き、車椅子使用者の介助等により支援提供が困難(職員数が限られている)になると思われる。今後、地域に散歩ボランティアを呼び掛け入居者の楽しみや喜びの支援に繋がるよう期待する。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人管理のお金の持ち込みは、認知症による管理能力の低下も踏まえ、最小限にして頂いている。ご本人やご家族からの希望が無い場合は、金銭管理の支援は行っていない。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設の電話は、ご利用者から希望があればいつでも繋ぐようにしている。また、手紙についても、差出し・受け取りを自由にして頂いている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく、広々とした共用の場はご利用者全員で大きな円になり体操ができ、窓の外は田畑・山が広がり開放的である。広いが在宅のような空間を作る工夫として、季節感のある作品や草花を飾るようにしている。	ホームは2ユニットありユニット間の間仕切りを開放して広々とした共用空間の中で思い思いに過ごされている。中央の空間には畳みスペースが設置されており横になって寛がれている。広いウッドデッキや窓外から田園風景が望め開放感が得られる使用となっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子をおいて思い思いの場所で過ごして頂いている。ウッドデッキや外の芝庭に自由に入出りができる。		

外部評価結果(グループホーム桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居契約時やカンファレンスの際に、ご家庭で使い慣れた家具や生活用品を準備して頂くをお願いしており、各ご利用者の生活習慣や好みに合わせた環境に整えている。	入居時の重要事項説明書にホームへ持ち込めるもの、持ち込めないもの等が記載されている中で入居者は馴染みの物(椅子、小物入れ、テレビ等)や家族写真、季節の鉢花などを持ち込み思い思いの住み心地の良い居室使用となっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、浴室、トイレ等に手すりの設置をしている。また、日々様子を観察し、改善が必要と思われる所の改善、工夫を行っている。		